



巻頭言／日本の社会福祉の発展を担うのは 社会福祉法人の役割	2
新たに「グローバル人財プロジェクト」発足 外国人労働者への期待、協働と共生へ	3
日本の外国人技能実習制度に高い関心 マニラ市の介護士教育など視察研修 京都エリア高齢者施設	3
地域とともに40年 認定こども園 正雀愛育園	3
人材育成・確保	4~5
改正第三者評価基準ガイドライン勉強会(保育部門) 問われる組織理念やリーダーシップ	
12月の内定式に元気な姿を見せてほしい! 30年度新規採用予定者(高齢者部門)“内々定式”	
先輩からのメッセージ	
地域貢献・交流・研修	6~7
親子で絵本に出会えるよ!子育て支援「くるみっ子」 認知機能バランサー登場 高槻けやきの郷“竹の内そだんの家” 子どもたちと高齢者 世代間ふれあい交流	
トピックス	8



社会福祉法人 成光苑

2017
秋号

非常食“コシヒカリがゆ”食べて防災訓練 ～東生野愛育園～

東生野愛育園は7月20日、地震を想定した防災訓練を行いました。避難訓練は毎月実施していますが、防災への意識をさらに高めるため訓練後、備蓄の“コシヒカリがゆ”を試食。「地震が起きた場合、避難所で非常食を食べることがあるかもしれない」と子どもたちに説明。少量のおかゆの非常食でしたが貴重な体験となりました。



ご利用者と地域の方対象に 月2回の健康体操 ～吹田竜ヶ池ホーム～

吹田竜ヶ池ホームでは5月から月2回(第2月・第4木)、1階の地域交流スペースを活用しご利用者と地域の方を対象に健康体操を行っています。地域の関係団体(片山・岸部ブロック介護者支援の会)の活動の一環で始まり、ヨガ指導者の高本須恵子氏と弟子の方がボランティアで指導され毎回多くの方が参加。身体を動かしてリフレッシュされませんか?



3年連続3位の好成績

愛育園男女混成チーム 施設職員バレーボール大会

第42回施設職員バレーボール大会(大阪民間社会福祉事業従事者共済会主催)が7月15日、大阪府立体育会館で開催され、愛育園の男女混成チームが出場、予選リーグを勝ち上がった同チーム(写真手前)は準決勝でも最終セットのデュースまでもつれこむ展開に。結果は善戦及ばず3位。

3年連続3位の成績ですが、来年は悲願の優勝に向けさらにパワーアップを図りたいと思っています。



【法人理念】

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

【サービス目標】

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

【老人施設経営方針】

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

【愛育園経営方針】

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【発行日】2017年10月

【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <http://www.onyx.dti.ne.jp/~seikouen/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

QRコードで簡単アクセス!



巻頭言



日本の社会福祉の発展を担うのは 社会福祉法人の役割

理事長 高岡 國士

社会福祉法人成光苑の事業推進にあたり、日ごろから皆様の多大なご協力とお力添えをいただき感謝とお礼を申し上げます。

「人づくり革命」掲げ地域福祉の充実へ

世界の中で最も早いスピードで高齢化が進む超長寿国日本では、人口のポリウムゾーンである団塊の世代が2025年に75歳以上の後期高齢者に移行する、いわゆる「2025年問題」に直面しています。子育てしやすい環境ではないとの風潮を背景に少子化は一段と加速、高齢者を下支えするベビーブーム到来も期待できず、将来的には人口減少社会への懸念さえ生じています。

衆議院解散・総選挙へのあわただしい動きが報道されています。安倍首相の解散表明会見では「生産性革命」によるアベノミクス効果で経済再建を図るだけでなく、「人づくり革命」を掲げ人口問題の解決や地域福祉の充実、福祉の効率化、教育費無償化など子育てしやすい環境の充実に努めています。

子育て世代への投資拡充策も

国は子育て、介護、現役世代が直面する不安

解消のため消費税引き上げによる財源を投入、我が国の社会保障制度を全世代型へと大きく転換させようとしています。

消費税率の引き上げ(8%→10%)による増収分の見直しを示唆しています。負債の返済のみに充てるのではなく、子育て世代への投資拡充策として幼児教育の無償化の意向を表明しています。具体的には、2020年度までに3歳から5歳まで、全ての子どもたちが幼稚園や保育所の費用を無償化する考えで、0歳から2歳児も所得の低い世帯では全面的に無償化するとしています。ハード面では2020年度を起点に、待機児童解消のための32万人分の受け皿整備、50万人分の介護の受け皿を整備するとしています。これらを考慮すると、今後とも我が国の社会福祉の発展を担うのは社会福祉法人であり役割でもあると考えます。

子を育て成長を喜ぶ社会の実現を

成光苑では社会福祉法人制度改革に対応するため、地域への社会貢献が第一との認識を念頭に、経営組織のガバナンス体制の強化や事業運営の透明性の確保、地域における公益的取り組み

などをすすめてきたところです。さらに介護職や保育士の処遇改善を講じるなど人材確保・育成・定着対策を図り、介護サービスや保育内容の質の維持・向上に努めています。つまり、介護機能の多様化を図ることをご利用者への総合的なサービスを提供するとともに、地域子育て支援を積極的に行うことで女性が安心して子どもを産み育て、その成長を喜ぶ社会の実現に寄与してまいります。

社会貢献取り組みの「見える化」を実践

これまでの「陰徳を積む」ということではなく、社会貢献の取り組み内容の「見える化」を図り、積極的に「見せる化」や「魅せる化」を実践し、社会福祉法人としての役割と責務を果たしていきます。ご利用者やご家族、地域の社会福祉関係者をはじめ皆様から信頼をさらに高めることができるよう精進してまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



5歳児がハーモニカ演奏を披露

きりん夜間保育園では6月7日、3~5歳児17名が成光苑高齢者施設吹田電ヶ池ホーム、9月15日には2~4歳児16名が、せつつ桜苑を訪問しました。

たくさんの高齢者のみなさんを前に、子どもたちは緊張気味でしたが、みんなで歌ったり、5歳児のハーモニカ演奏などでは大きな拍手が起こり大喜び。

高齢者の方々に肩たたきをしたり、一緒に歌うなどふれあい遊びを楽しみました。

高槻けやきの郷 “竹の内そうだんの家”

介護予防イベント



高槻けやきの郷が地域の一軒家(空き家)を借り月2回、介護保険相談などを行っている“竹の内そうだんの家”では9月12日、主として高齢者を対象に介護予防イベントを開催しました。

注意力・計画力・記憶力などのバランスを測定する「認知機能バランス」というパソコンソフトを試したところ、「これは…覚えられへんわ〜」「注意力…私の苦手分野や〜」と真剣な眼差しと笑いも交え大人気。世間話や体調面の相談にも応じました。今回のイベントでは当施設の在宅ケアマネジャーの知り合いでマッサージ治療院の先生にも賛同してもらい無料施術が受けられ、こちらも好評でした。

「認知機能バランス」に 真剣な眼差しで挑戦



野菜と誕生メッセージ届ける

認定こども園 正雀保育園では7月20日、老人会を通して近隣の一人暮らし高齢者宅(5軒)へ園で収穫した野菜(ナスとキュウリ)と園児が書いた誕生日のメッセージカードを届け、また、翌21日には同老人会から6名を園に招き給食会を開きました。

地域貢献の一環です。野菜を届けたお礼に手作りのお手玉をプレゼントしてもらい子どもたちは大喜び。お年寄りの招待はひきこもりがちな高齢者のみなさんと園児との世代間交流を兼ねた“居場所提供”です。給食を5歳児と一緒に召し上がり楽しく会話を交わされる姿が見られました。老人会の方から「楽しませてもらってありがとう」「元気をもらった」などの声が聞かれました。

高校生パティシエが参加、 フレンチパフェなど提供し大盛況

サンヒルズ紫豊館
7月23日

恒例の夏祭り

今年は高校生パティシエ日本一を競う『スイーツ甲子園』決勝大会に昨年度も出場している福知山淑徳高校から10名の学生さんが参加、たいへんな盛り上がりとなりました。

学生さんはアロハ姿で出店、韓国風かき氷とフレンチパフェを手際よく作る姿に子どもたちもクギ付け、即完売!

地元青年会のみなさんも冷やしキュウリや魷の塩焼きなど地元で採れた新鮮な旬の食材を料理提供され大盛況でした。



「グリーンケア」を盛り込んだ夏祭り スタッフの感謝の気持ちを届ける

ライブ・ステージ 舞夢
7月22日

恒例の夏祭り「由良ゆら夕涼み会」を開催、今回はグリーンケア(遺族の悲しみに寄り添うケア)をプログラムに盛り込みました。

当施設が開設されて9年、多くのご利用者との出会いや別れがありました。現在のご利用者だけでなく、これまでご利用くださった方、亡くなられた方へも感謝の気持ちを届けたいという思いからです。賑やかさだけのお祭りにとどめず、ご利用者の日々の様子や退所された方のフォトムービーを施設壁面の特設スクリーンに映し出し、スタッフから感謝の手紙を音楽に乗せて読みあげました。



い



近隣の高齢者宅で七夕飾りつけや肩たたき

認定こども園 一津屋愛育園の5歳児(26名)が7月7日、近隣にあるシェアハウス花みずき(サービス付高齢者向け住宅)を訪問、ご利用者と笹に七夕の飾りつけをしたり、ハーモニカ演奏や盆踊りを披露しました。高齢者のみなさんとの会話を楽しみながら肩たたきをして触れ合い、お別れの際は「また来てね～」と子どもたちへ手を振って涙を浮かべられる光景も。子どもたちにとってすばらしい世代間交流となった一日でした。

子どもたちの健康を祈願 地藏盆



第二愛育園 8月26日 園の出入り口でいつも園児の安全を見守ってくれているお地藏様に花を手向け地藏盆を行いました。地域の寺のご住職にご詠歌をあげてもらい、スタッフ一同が子どもたちの健康を祈願。保護者のみなさんもお参りされました。盆踊りでは子どもたちが日ごろの練習の成果を発揮、元気いっぱい踊ることができました。手作り提灯が夕暮れの空に映え、楽しい時間を過ごしました。

みんな集まって楽しむ! 「夏まつり会」祭

前年度卒園児、地域の未就園児の親子、姉妹園も参加
東生野愛育園 7月21日 前年度卒園児、地域の未就園児の親子、姉妹園(くるみ愛育園、くるみ小規模保育園)の園児を招待して夏まつり会を実施しました。

園庭ではヨーヨーつり、スーパーボールすくい、しゃぼん玉などを楽しみ、室内ではボールプールや輪投げのほか、園児(5歳児)が制作した手作りのアンパンミュージアムが人気を呼びました。地域の未就園児の親子のみなさんは、在園児と一緒に楽しめたことにたいへん喜ばれていました。卒園児らも久しぶりに会う友だちやスタッフとの交流に夏の楽しい思い出が刻まれたことと思われます。



あ

認定こども園 正雀愛育園—サンヒルズ紫豊館

「幸せなら手をたたこう」の曲に合わせ 5歳児が交歓会

認定こども園 正雀愛育園のひばり組(5歳児29名)は8月19日、園バス(千里丘愛育園)を利用して成光苑高齢者施設サンヒルズ紫豊館(福知山市)を訪問、お年寄りのみなさんと交歓会を行いました。子どもたちは和太鼓演奏を披露、ご利用者や施設のスタッフから大きな拍手をもらい、嬉しそう。「幸せなら手をたたこう」の曲に合わせた触れ合い遊びでは、ご利用者も園児を抱きしめこぼれる笑顔。子どもたちの「また来るね～バイバイ～」の元気な声が印象的でした。



くるみ愛育園 「絵本のえんがわ」



親子で絵本に出会えるよ!

くるみ愛育園では毎月第4火曜日に園庭開放など「くるみっ子(地域子育て支援事業)」を実施しています。今年度は「親子で絵本に触れてもらいたい」というねらいから「絵本のえんがわ(絵本の図書館)」を同じ日の園庭開放後の30分間利用できるようにしました。初めて利用したお母さんからは「木の香りがする素敵な部屋で絵本が見られるってイイですね～」と子どもとゆっくり絵本を読めるので嬉しいですよ」との声が寄せられています。絵本を通して親子が向き合っている姿は微笑ましく、穏やかに時間が流れているような感覚が伝わってきます。子どもたちが選んだ絵本から、保育士が2～3冊読み終えたところで名残惜しそうに帰り支度をされるお母さんの姿も印象的。これからも「絵本のえんがわ」で心暖まる絵本に出会えることを期待しています。

在宅児童の親子対象に「水あそびの会」0～2歳児11名参加

認定こども園 一津屋愛育園は、屋上で地域の在宅児童の親子を対象に「水あそびの会」を行いました。参加したのは0歳児～2歳児の計11名。色水遊びやボディペインティングなどで絵の具の感触を楽しんだり、オリジナルのジュースを作ったりと、夏らしい遊びを親子で楽しみました。「家庭ではできない遊びを経験できて楽しかった」「開催回数を増やして」といった要望も寄せられました。今後も地域のみなさんが気軽に参加できる遊びや季節に合わせたイベントを企画したいと思います。

外国人労働者への期待、協働・共生へ 新たに「グローバル人材プロジェクト」発足



成光苑(高齢者部門)では今年度、新たな法人プロジェクト「グローバル人材プロジェクト」を発足させました。介護人材確保に備えるため、外国人労働者への期待とともに協働・共生への理解について向き合っていくのが狙いです。プロジェクトメンバーは各施設の主に管理部門の責任者(施設長など)12名と、実際の介護現場で指導者として外国人と関わるスタッフ15名のサポートメンバーで構成。今後の外国人受け入れは、早ければ年明けにも大阪2高齢者施設でベトナム人留学生(昨年末の現地面接合格者)4名がアルバイトで入社を予定しています。

年明けにもベトナム人留学生がアルバイト入社

け入れに向けて着々と準備を進めており、すでに複数回の現地視察を行っている。法人内で先駆的に外国人(在日フィリピン人)を介護人材として受け入れているライフステージ 舞夢では、地域と連携し「つぼみの会(日本語や日本の文化について理解を深め、グローバル介護職員初任者研修を開講するなど外国人との関わり方について経験を積み重ねています。今回の取り組みはプロジェクトメンバーとサポートメンバーが発信者となり法人全体(全てのスタッフ)に理解を求めている段階ですが、定期的に、あるいは進捗状況に応じて全体会議や緊急の戦略会議などを開き情報共有を図る方針です。

日本の外国人技能実習制度に高い関心 マニラ市の介護士教育など視察

「京都エリア高齢者施設」

成光苑京都エリアでは8月7日(10日)千里経営サポート事業協同組合(外国人技能実習生受け入れなど)と共同企画でフィリピンマニラ市内への視察研修(4名)を実施しました。視察先は外国人技能実習制度に関係する介護士教育機関「バーベチュアルチュアルヘルプ大学」[ACTEC(アジアケアギバー&テクノロジエデュケーションセンター)](バコール校)「セントドミニク学校」の3ヶ所、日本語教育機関「国際交流基金マニラ日本文化センター」、送り出し機関「JGMR(ユナイテッドグローバルマンパワーソリューション)の計5ヶ所。



介護士教育機関では授業風景視察のあと、日本の外国人技能実習制度に関する情報交換。しかし、同制度に高い関心があるものの日本語習得の難しさ、英語圏「まるとこと(日本語国際センター)を活用、文法などの知識に捉われない日本語のコミュニケーション能力と日本文化をバランスよく学べる工夫がされていた。[JGMR]との情報交換では「今まで優秀な人材を送り出してきた実績とネットワークをもとに確実に日本への介護人材を送り出すことができる」と力強い言葉を聞くことができました。同制度が29年11月に施行されると、一気に日本からフィリピンに対する人材確保が加速すると予測されます。当法人が堅実かつ効果的に外国から人材を受け入れるためには「国内外の協力機関」「日本語教育方法」「就労条件」「受け入れ態勢」など速やかに検討・調整する必要があると再認識させられました。

創立40周年 地域とともに歩む 感慨ひとしおの 認定こども園 正雀愛育園



認定こども園正雀愛育園は5月2日、創立40周年となり、歴史の一つの節目を迎えました。7月16日にホテル阪急エキスポパークで開かれた記念式典では、映像を通じて40年の歴史を振り返り、地域の一員として歩んできたスタッフも感慨ひとしお。



式典のあと祝賀会では、スタッフのバルーンアートの披露や極真(空手)世界ジュニア選手権大会でチャンピオンとなった卒園児(中2女性・写真)をサプライズゲストに迎え、楽しいひと時となりました。これからも地域に愛され、必要とされる園を目指してスタッフ一丸となり保育に専心したいと思っています。

「みなさんのおかげで 岩戸ホーム 生きて百になり大臣さんに 賞(ほうび)をもらう」



岩戸ホームのご利用者127名(サポートハウス47名・特養80名)が9月13日、敬老式典・祝賀会に臨まれ、うち100歳を迎えられた3名の方に、安倍晋三総理大臣と山田啓二京都府知事より百寿の記念品が届けられ藤原義章施設長から贈呈されました。

お礼あいさつでは「大正6年に生まれ、いろいろあって今日100歳のお祝をもらいありがとうございます」「100歳を迎えられたのもみなさんのおかげです」と述べられ、「みなさんのおかげで生きて百になり大臣さんに 賞(ほうび)をもらう」と歌を詠まれました。

各ユニットでダンスの披露や歌・ギターの弾き語り、オカリナやハーモニカ演奏のボランティアを招きお祝い。別会場のサポートハウスでも懐かしのスライドショーなどがあり楽しいひと時を過ごされました。

ご利用者の3人が100歳に 安倍総理や山田京都府知事から 百寿の記念品

「12月の内定式に元気な姿を見せてほしい！」

30年度新規採用予定者(高齢者部門)の“内々定式”

成光苑(高齢者部門)では9月2日、せつ桜苑会議室で平成30年度新規採用予定者を対象とした内々定式と食事会(別会場)が行なわれました。このセット企画は初めての試みで、任意参加でしたが採用予定者のほとんどが参加してくれました。

内々定式では採用担当者から配属先が発表され、通知書が手渡されました。

た。南猛文事務局長から「残り少ない学生生活を存分に謳歌し、また12月の内定式に元気な姿を見せてほしい」とエールが送られました。

食事会では初めのうち採用予定者も緊張気味でしたが、法人スタッフが事前にコンタクトを取ったことや内定者同士が再会したりと和やかな時間を過ごすことができました。



女性認知症サポーター、一挙に28名誕生

～ライフ・ステージ 舞夢で養成講座～

ライフ・ステージ 舞夢は9月7日、「認知症サポーター養成講座」を開講しました。参加されたのは施設見学で来訪された『京都府女性の船・ステップあけぼの』のメンバー28名で全女性講座は初めて。受講後にオレンジリングを贈呈、一挙に女性認知症サポーターが誕生しました。

「認知症を学び、地域で支えよう」をテーマに、同施設スタッフの寸劇を交え認知症の方と接する時の心構えや支援の基本姿勢を説明。特別なことをするのではなく、認知症の方やそのご家族の応援者となって寄り添い、「地域の中で周囲の理解や気遣いがあれば穏やかな暮らしが可能」という精神を広めてもらうのが願いです。

『京都府女性の船・ステップあけぼの』は地域や職場で活躍する女性リーダーを育成、「新たな一歩が踏み出せる」「生涯の仲間ができる」活動を展開されています。



研修

新入スタッフの基礎研修 大阪3施設合同で実施

成光苑(高齢者部門)では4月から、各施設で新入スタッフ(中途採用含む)を対象に行っていた基礎研修(2ヶ月を1クール)を大阪3施設で合同実施することになりました。

座学(2日間)では法人理念を軸に介護保険制度やメンタルヘルスについて、介護実技(2日間)では入浴体験も行います。講師陣は各施設のチューターが交代で担当。研修の主な目的は、成光苑のルールを知ってもらうこと、中途採用という不安を軽減し仕事でつまづかない配慮をしています。特に不安や心配のある科目や介護実技は再度講義に参加することもでき好評です。

現在、テキストの見直し作業を進めており、次年度にはオリジナルテキストが完成予定です。

せつ桜苑をアピール



高校、大学・専門学校生計25名受け入れ サマーフェスティバルのボランティア募る

せつ桜苑では8月6日、恒例のサマーフェスティバルを開催しましたが、今年は「学生に、もっとせつ桜苑を知ってもらいたい!」という思いを込めボランティアを募ったところ、近隣の府立高校から5名、福祉系専門学校・大学から20名の計25名のボランティアが参集してくれました。

ボランティアのみなさんには模擬店の準備や販売、ご利用者の誘導などを担当していただき大助かり。おかげでイベントは大盛況でした。

終了後、「この仕事(介護)の良さが伝われば」とスタッフとの交流会を行ったところ、「また来年も参加します!」と嬉しい声もあがりました。施設の知名度アップにつながるのではと期待しています。

～先輩からのメッセージ～

「この職について本当に良かった」と実感
プロの介護職として困難にも真摯に向き合いたい



三宅 輝政
せつ桜苑
平成29年度入社

私は相談援助業務(生活相談員など)の仕事に就くことを漠然と考えていました。しかし、せつ桜苑で介護実習やアルバイトを通じて、学校では学ぶことができない“プロの介護の仕事”を見て感動、「自分もなりたい!」と思ったのが介護職に決めたきっかけです。

半年が経過し、お世話をさせてもらう大先輩(高齢者)の笑顔や「ありがとう」をいただいた時の喜びは「この職について本当に良かった」と実感できる瞬間ですが、人と関わる仕事の大変さも少しずつ経験しているところです。社会人としてスタートしたばかりですが、しっかり目標を持ち、プロの介護職として困難なことにも真摯に向き合っていきたいと思っています。

問われる組織理念やリーダーシップ

改正第三者評価基準ガイドラインの勉強会

保育部門の愛育園では7月25日、白鳩チルドレンセンター東大阪の栗本広美園長を講師に迎え、『第三者評価に向けての勉強会』を愛育会館で実施、各愛育園から50名を超える保育スタッフが参加しました。

28年3月の『福祉サービス第三者評価基準ガイドライン(保育所版)』改正に伴い、求められる新評価基準に沿って「保育サービスの充実と改善課題を明確にする」を目標に受審準備をすすめているものです。

同ガイドラインでは組織の理念、基本方針、保育の基盤となる管理者のリーダーシップ、組織体制、質の向上のための組織的・継続的な取り組み、福祉人財の確保・育成、さらに保育内容が総合的に評価されることになりました。栗本園長は各園から事前提出された「評価基準について質問事項」について丁寧に解説され、参加者から「受審する目的や不明な点が明確になりモチベーションが上がった」と前向きな意見が聞かれました。



「マナーとは相手を大切に思う心」

40名参加

「部下指導研修」
9月2日、愛育会館

各愛育園の幹部層と次世代リーダー候補のスタッフ40名が受講しました。「自己成長と部下育成に必要なコミュニケーション能力」をテーマに、講師は

島津ゆう子氏(フリーアナウンサー、品格・人間力BrushUpコーチ)。島津氏はポイントとして「マナーとは相手を大切に思う心。コミュニケーションとは相手にどのように理解されたかが大切で、信頼関係を築くために身につけること」と指導されました。

社会情勢の大きな変化や若者の考え方、価値観の違いを教えられ、後輩の育成に役立つヒントを学ぶことができました。



ピアノの弾き方で 子どもの動きが変化

リズム研修(乳児対象)
9月2日、きりん夜間愛育園

主に乳児担当の保育スタッフ48名が参加しました。講師は春本繁子成光苑理事。実際に第二愛育園の1～2歳児の子どもの動きを見ながら、指導の仕方やピアノの弾き方を講義されました。ピアノの弾き方の違いで、子どもの動きが変わる様子がよくわかり充実した実践研修となりました。



実践的なリズム研修

研修

絵本の力、 大切さを学ぶ

～愛育園スタッフ50名受講～

「絵本研修」
8月19日、愛育会館

鈴木健司氏(大阪東こどもの友社)を講師に招き「絵本研修」を行い、各園(一部除く)から50名の保育スタッフが参加しました。

内容は「絵本が聞けない子への対応」「絵に隠れた秘密」「絵本を保育につなげる工夫」の3テーマ。社会環境の変化で絵本離れが進み、興味を持たない子どもが増えてきたという流れがある

ようですが、絵本は遊び方が一つしかない玩具に比べ、創造力を育み、ごっこ遊びや見立て遊び、運動遊びなど様々な遊びに発展させることができます。

鈴木氏は保育者の役割について、単に絵本を好きにさせようとするのではなく、絵本の時間を好きになるような取り組みが重要と指導。改めて絵本の力、大切さに気づかされました。

